



ロータリー発足の当初に、アーサーシェルドンが「service」と職業奉仕の理念を提唱してから100年が過ぎました。ロータリーの真髄ともいえる職業奉仕の考え方が薄れていき、慈善運動でその価値観を高めようとしている姿に、多くの日本のロータリアンが失望感を持っていたと思います。しかし私は次の三つの理由からロータリーにとって「今こそ職業奉仕」活動が最も望まれている時だと考えます。

1. ロータリアンによる恥ずかしい事件

北海道の「ミートホープ事件」や京都の「漢字検定事件」のように、ロータリーの指導的立場の者が恥ずかしい事件を起こしています。職業奉仕の根本を今一度学び、お互いに研鑽し、高い倫理観を持って職業に取り組む会員を育成しなければなりません。

2. 少ない経費で効果の大きい奉仕

経済状況の厳しい時だから「少ない経費で効果の大きい奉仕」を企画する必要にせまられています。幸いロータリークラブは、各界各層の専門家の集団ですから、その専門的知見を生かした奉仕(例えば出前授業、よろず相談等)を実施すれば「ローコストでハイエフェクト」な事業が可能になります。

3. 職業奉仕に対するRIの変化

「忘れられた職業奉仕」などと揶揄されていた時期もありましたが、RIは2007～10年の長期計画の新しい7つの項目の一つに、「職業倫理の高揚、職業技能の開発」等、具体的な実践目標を掲げて、取り組みを強化

しました。又10年ぶり(2007～8年度)にRIに職業奉仕委員会が立ち上がりました。更に2009～10年度の国際協議会では職業奉仕に関するスピーチをブラジル人、アメリカ人のRI理事、そして過日RI会長ノミネーに選ばれた日本人の田中作次氏の3名が行う等、職業奉仕の大切さをRIも再認識しています。

〔職業奉仕に係わる人の役割〕

ロータリークラブは職業を絆とする人たちの集まりですから、まず何よりも会員各自がその職業に関係する全ての人々の立場に立ち、高い倫理観を持って職業活動を行うことが大切です。そのような会員を育てる道場が、ロータリークラブであり毎週の例会なのです。そのためのプログラムの立案、実行、すなわち「入りて学び、出でて奉仕せよ」のための研修と勉強会の支援が大切な役割です。

〔本年度の地区職業奉仕委員会の強調事項〕

1. クラブ職業奉仕委員長を中心とする卓話とフォーラムの実施

10月の職業奉仕月間に、各クラブで卓話を基調とするフォーラムを実施して頂きます。

2. 会員による職業卓話の推進

会員各位に自らの職業に関して、倫理上素晴らしいと胸をはれる内容、或いはロータリアンとして少し恥ずかしいような内容などを含めた職業卓話をしていただくことを推奨します。

3. 出前授業の推進

10年来行ってきた「出前授業」を更に推進します。